

登録コード	E4614900	開講年度	2026			
授業科目	中等社会科公民教材研究				担当教員	松本 康
英文授業名	Material Study for Civics Teaching				副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・4時限	対象学生
講義室	教育M301講義室	授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	1.実践記録に触れることにより授業づくりの意義に気づくこと。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	1.公民的分野と公民科の教材研究のプロセスを理解すること。 2.単元指導案が作成できるようになること。 3.模擬授業をすることによって基本的な授業の力量を身につけること。
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	中学校社会科公民的分野・高等学校「公民」の学習内容について、模擬授業の実施を前提として教材研究を行う。模擬授業を通して授業を構想し展開、評価する授業実践力の基礎を身につける。前半は社会科公民的分野及び「公民」の授業の特質、教材研究の方法、様々な授業方法について講義する。後半はグループ単位で模擬授業のための教材研究を行い、実際に模擬授業を行う。					
(5)授業計画	第1回：ガイダンスー「公民」の特性とは何か 第2回：授業実践に見る教材研究と授業構成1（小学校） 第3回：授業実践に見る教材研究と授業構成2（小学校2） 第4回：授業実践に見る教材研究と授業構成3（中学校） 第5回：授業実践に見る教材研究と授業構成4（中学校2） 第6回：素材の価値分析（素材価値分析表の作成） 第7回：教材研究1テーマ設定（グループワーク） 第8回：教材研究2資料収集（グループワーク） 第9回：教材研究3単元構想（グループワーク） 第10回：単元指導案作成1 単元構想（グループワーク） 第11回：単元指導案作成2 各自指導案作成（グループワーク） 第12回：単元指導案作成3 模擬授業指導案検討（グループワーク） 第13回：模擬授業1（前半グループ） 第14回：模擬授業2、（後半グループ） 授業アンケート					
(6)成績評価の方法	・ポートフォリオ（毎回の感想）(30%)，授業のねらい1～3に対応する小レポート(20%)，素材価値分析表（20%），および最終レポート（30%）によって評価する。最終レポート（単元指導案）はグループレポートとして、模擬授業のできと単元指導案を合わせて評価する。グループ活動回の出席率をグループへの貢献度として、個人評価＝グループ評価×貢献度，で評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可					
(7)成績評価の基準	・素材価値分析表の評価規準は次の通り。 （i）素材の収集が十分か、（ii）価値分析を通じた教材化ができているか。 最終レポート（単元指導案）の評価規準は次の通り。 （i）テーマの設定が適切である。（ii）テーマに沿った教材研究ができている。（iii）指定された形式に沿って指導案が作成されている、（iv）適切な単元構成ができている。（v）現場の実践として通用する。 （i）から（v）までの項目を満たし、かつオリジナリティーがあれば「卓越している」。（i）から（v）までの5項目が満たされていれば「かなり上にある」、4項目を満たしていれば「やや上にある」、3項目を満たしていれば「その水準にある」。					
(8)事前事後学習の内容	・事前事後学習の課題はeALPSに指示する。 ・各グループでテーマを定め、次のプロセスで教材研究をする。日常生活に渡る教材研究が必要である。 1.学習指導要領、教科書、資料集においてそのテーマがどのように授業化されているかを調べる。 2.文献、ネット、フィールドワーク、インタビュー等により、素材を集める。 3.素材を教材として絞り込み、教材の価値分析を行い、単元指導案に位置づける。 4.指導案を作成し、発表と模擬授業により修正して最終指導案レポートを作る。 ・自分で集めてきた素材（1次資料）の収集からの教材化・授業化が重要なので、すでに作られた資料（2次資料）のみに頼らないこと。 ・小レポートについてはeALPSに指示する。 ・第11回以降の模擬授業はグループ単位の指導案に沿って行う。本時指導案と資料（教材）を配布して冒頭部分の授業を行い、検討する。 ・最終レポートは単元指導案をグループ単位でひとつ作成し、その中にメンバー各自1時間分の本時指導案を含める。 ・この授業は90時間の学修を必要とする内容であり、60時間以上の時間外学習が必要。					
(9)履修上の注意	・対面で行うが、状況によりオンライン(Zoom)・オンデマンドを使用することがある。 ・社会科の指導法科目（初等社会科指導法基礎、中等社会科指導法基礎、地理歴史教育指導法、公民教育指導法のいずれか）を履修した後に受講すること。教育実習の経験を前提とするので、3年次以降に					

(9)履修上の注意	履修すること。 ・グループワークが中心の授業なので、積極的な参加が求められる。 ・出席はeALPSに毎回感想を記入することでカウントする。ポートフォリオとして評価材料に使用するの で毎回100～200字程度で書くこと。 ・教育実習で欠席した人の課題はeALPSに指示する。 ・グループによる教材研究・指導案作成にはGoogleDriveのファイル共有機能を使う。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	メールにて対応する。matsu_y@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』，東洋館出版社，2018年。（生協にて入手。PDF版は文部科学省HPからDL可） ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』（平成30年告示）。（文部科学省HPからPDFファイルをDLすること。 http://www.mext.go.jp/ ）
【参考文献】	・日本社会科教育学会編『社会科教育事典（第3版）』ぎょうせい,2024年 ・日本公民教育学会編『公民教育事典』第一学習社、2009年 ・文部省(著)/西田亮介(編)『民主主義 〈一九四八 - 五三〉 中学・高校社会科教科書エッセンス復刻版(幻冬舎新書)』幻冬舎、2016年 ・高校生向け副教材「私たちが拓く日本の未来」(総務省HP) http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/senkyo/senkyo_nenrei/01.html ・電子政府の総合窓口e-Gov http://www.e-gov.go.jp/ ・総務省・文部科学省『私たちが拓く日本の未来—有権者として求められる力を身につけるために—』(高校生向け副教材) ・国土地理院(電子国土Web) http://www.gsi.go.jp/ ・国立歴史民俗博物館 https://www.rekihaku.ac.jp/ ・国立民族学博物館 http://www.minpaku.ac.jp/ ・東京国立博物館 http://www.tnm.jp/ ・長野県立歴史館 http://www.npmh.net/ ・長野市立博物館 http://www.city.nagano.nagano.jp/museum/ ・中学校・高等学校で使用した教科書や参考書も参照すること。